

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 20 日現在

機関番号：32412

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2011～2013

課題番号：23330034

研究課題名(和文) EUの総合的研究 / 4つの視点から ヨーロッパ・社会民主主義・福祉国家・平和主義

研究課題名(英文) A Comprehensive Study of EU

研究代表者

大木 雅夫 (Ohki, Masao)

聖学院大学・政治政策学研究科・客員教授

研究者番号：10053563

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 8,300,000円、(間接経費) 2,490,000円

研究成果の概要(和文)：「EUの総合的研究 / 4つの視点から ヨーロッパ・社会民主主義・福祉国家・平和主義」をテーマとして、各人の専門分野を中心に3年間の共同研究を行った。研究実績は、福祉レジーム、ヨーロッパの安全保障問題、EUの経済政策、ヨーロッパの地域・経済政策、旧東欧諸国のEU加盟問題、EU形成の思想と歴史である。わが国のEU研究は、概して加盟各国に関する研究中心でなされてきたが、EUの諸問題は多岐にわたり、長期的な共同研究が必要である。今回の共同研究は今後のEU研究のモデルともなりえよう。日本から遠く離れたEUの研究は困難とはいえ、日本の国際的地位からして、欧米露中それぞれの全体像を見るには有益ともいえよう。

研究成果の概要(英文)：For the last three years, eight researchers jointly made a comprehensive study of EU on four perspectives: Europe, Social Democracy, Welfare State and Pacifism. As the results, new perspectives in the various fields were found, such as: Welfare Regimes, European Security Issues, Economic Policies in EU, European Regional Economic Policy, Issues of Eastern Europe Countries Joining EU, and History and Motive of EU Formation. Previously, EU studies in Japan tended to treat the individual country. However, problems in EU countries have to be considered and solved cross regionally. Long-term continuous studies are required to cope with these issues. From this point of view, this study can be a breakthrough and a model on EU studies. Although EU studies are not easy task for the Japanese people because of the great distance, but if we think of Japan's place in the international situation, it shouldn't be difficult to see the whole view of Europe, America, Russia and China.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：法学・新領域法学

キーワード：EU 民主主義 福祉国家 平和主義 政治思想 地域政策 社会保障 人権共同体

1. 研究開始当初の背景

アメリカに次ぐ帝国とされる EU の研究は、先駆的研究者の歩んだ苦難の道と優れた業績にもかかわらず、戦後 75 年のアメリカ研究とは比較できない状況に置かれている。突破口は、研究の組織化にあり、特に政治諸学の緊密な提携によって「総合的」研究の実を挙げることにある。その連結点は、有史以来のヨーロッパ理念の再確認と、EU 加盟国を支配する社会民主主義、福祉国家、平和主義の理念と現実の探求にある。

2. 研究の目的

わが国にも芽生え育ちつつある EU 研究を組織化し、国益に奉仕する。広大な問題領域の中でさまようことなく、ヨーロッパとは何かを根源的に問い、社会民主主義と福祉国家と平和主義の目標と現在の到達点を人文・社会諸科学の多角的視点から、「総合的に」探求する。緊密な関係にある問題点への限定と複眼的・俯瞰的視座に立って成果をあげることを目的としている。

3. 研究の方法

本研究は 3 カ年計画の共同研究である。リスボン条約批准可能性は高まり、前途に希望の光をみて、平和主義に重点を置いてヨーロッパ理念を見直す必要があり、また統合を基礎づける社会民主主義と平和国家への理想とその現実を、先駆的ながら閑却されがちな国々に力点を移して探求した。

本研究課題に取り組むに当たり、各分担者は各自の研究を進めたが、全体的な研究方法としては、平成 23 年度は EU がヨーロッパに成立したことの歴史的・地理的・思想的・文化的原因の究明を行なった。

平成 24 年度以降は、EU 形成の具体的な政治的・思想的・歴史的な問題について討論した。また、EU 参加の各国毎の事情について現地調査を行ない、必要な資料収集にあたった。穴見明はストックホルム、田中拓道はロンドン、廣瀬真理子はオランダ、ライデン市・ハーグ市・ユトレヒト市にて、岡本和彦はロンドンとセルビア共和国にて、上原史子はオーストリアにて、資料の閲覧・筆写・複写等を行なった。

平成 25 年度はそれまでの研究成果を持ちあって当該研究をまとめた。

4. 研究成果

わが国における EU 研究は、広範な対象ゆえに、個々の加盟国と EU との関連に関する研究がほとんどである。この点で、今回のような共同研究は今後の EU 研究を進める上で一歩前進した形態といえよう。

研究代表者・大木雅夫は、EU を単なる「経済統合」・「政治統合」組織として見るのではなく、21 世紀における最大の「平和組織」としての条件をもっていることに着目して、EU をヨーロッパ・福祉国家・社会民主主義・平和主義の 4 つの視点から研究する必要性を痛感し、本研究を企画した。そのため、比較法の観点から 4 つの視点を考察し、また全体の研究を統括した。

分担者・田中浩は、古典古代から現代に至るまでの EU 諸国に共通する人権・自由・平等・平和思想の内容について研究した。また、戦後ヨーロッパにおける EU 形成史について、また、ヨーロッパ以外の地域、とくに東アジア地域における EU 化の可能性について比較考察した。

分担者・中村健吾は、「リスボン戦略」のもとでの EU における経済・社会ガバナンスの変容と欧州公共圏の形成の度合いを明らかにしたうえで、2011 年から 2020 年までの EU による新しい中期発展戦略である「欧州 2020」の展開が加盟国の社会政策に及ぼしつつある影響を追跡した。特に、ユーロ危機を契機とする EU による金融規制の発展、ならびにそれに付随して展開されつつある加盟国の社会政策への調整の深化を把握することができた。

分担者・穴見明は、EU の地域政策・都市政策とスウェーデンの地域政策・都市政策との間の関連を、政策アイデアのレベルと政策の企画及び実施のレベルという、2 つのレベルにおいて明らかにすることを課題として研究を進めてきた。実態把握のために必要な政策文書等資料を収集しその分析を進めた。

分担者・田中拓道は、ヨーロッパ統合の進展によって各国の福祉レジームがいかなる変容を遂げているかを分析する枠組みを構築した。「社会的ヨーロッパと新しい福祉政治」(2011 年)では、ヨーロッパ保険市場が形成されることで、各国の福祉レジームは超国家的、国家的、地域的レベルへと重層化していることを指摘した。さらにこの枠組みを作ってフランス福祉レジームの変容を検討した。

分担者・廣瀬真理子は、高齢化やグローバル化にさらされる EU の福祉国家の変容と課題についてオランダを事例にあげ、EU の政策動向に照らし合わせて福祉国家改革の分析・検討を行なった。伝統的な福祉国家の理念の変化が、社会保障の個別分野にどのような影響を与えているのか、文献・実証研究の両面からその一端を明らかにしたが、これを基礎として、最低生活保障のあり方などについてもこの研究を発展させたい。

分担者・岡本和彦は、自身の課題とする旧ユーゴスラヴィア諸国の EU 参加の問題を考える手がかりとなるべく論文「EU 東方拡大とユーゴスラヴィア」を 1 年目に執筆したが、それをもとに特にセルビアの今後の加盟がもつ歴史的意味を探るべく 2 年目にセルビア

を訪問し資料を収集し、7割ほど収集達成できた。

分担者・上原史子は、ヨーロッパ共通の安全保障政策の発展の中で特に気候変動運動が安全保障政策として取り上げられるようになってきた過程を明らかにすることができた。今後も引き続き、EU・EU加盟国の気候安全保障をめぐる課題を精査し、それらの課題への取り組みを、日本に適用できないか、その可能性を探る。

わが国のEU研究は、概して加盟各国に関する研究中心でなされてきたが、EUの諸問題は多岐にわたり、長期的な共同研究が必要である。今回の共同研究は今後のEU研究のモデルともなりえよう。日本から遠く離れたEUの研究は困難とはいえ、日本の国際的地位からして、欧米露中それぞれの全体像を見るには有益ともいえよう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計10件)

中村健吾、テーマ別研究同国 シティズンシップ、社会学評論、査読有、63巻1号、2012、p.p138 - 149

上原史子、オーストリアのエネルギー政策 脱原発から再生可能エネルギーへの道のり、法学新報、査読無、第117巻11・12号、2011、p.p679 - 705

田中拓道、ヨーロッパ貧困史・福祉史研究の方法と課題、歴史学研究、査読無、887号、2011、p.p1 - 9

廣瀬真理子、オランダの労働市場と雇用政策、社会政策、査読有、第3巻第2号、2011、p.p37 - 47

〔学会発表〕(計15件)

太木雅夫、EUの基礎としての「人間の尊厳」、EUの総合的研究、2013年12月16日、聖学院新館

廣瀬真理子、新自由主義的改革に直面するオランダの「家族政策」、社会政策学会第126回大会テーマ別分科会「グローバル化のもとで家族政策はどこへ行くのか 大陸ヨーロッパ三カ国の検討」、2013年5月26日、青山学院大学

田中拓道、グローバル資本主義と政治学、日本政治学会、共通論題招待講演、2012年10月6日、九州大学

太木雅夫、EUと民主主義、「ヨーロッパ統合の理念と実態」研究会、2011年12月12日、聖学院新館

中村健吾、EUにおける社会的包摂政策の到

達点 「リスボン戦略」から「欧州2020」へ、2011年度社会病理学会大会、2011年10月2日、大正大学

上原史子、日本のエネルギー政策の将来を考える：ヨーロッパの現状から、世界政治研究会、2011年6月18日、東京大学

〔図書〕(計27件)

上原史子、気候変動とヨーロッパの安全保障、グローバル化と現代世界、中央大学出版部、2014、439頁、p.p183 - 212

中村健吾、境界線を引きなおして他者を迎え入れる - 公共圏、親密圏、シティズンシップ -、モダニティの変容と公共圏、京都大学学術出版局、2014、281頁、p.p76 - 100

田中拓道、公と民の対抗から協調へ - 19世紀フランスの福祉史、近代ヨーロッパの探求15福祉、ミネルヴァ書房、2012、398頁、p.p115 - 149

穴見明、ヨーロッパにおける領域的空間の変質 - オーレスンド・リージョンの事例に沿って、EUを考える、未来社、2011、244頁、p.p149 - 166

上原史子、EUの気候安全保障：ヨーロッパの気候変動・エネルギー政策の新たな取り組み、EUを考える、未来社、2011、244頁、p.p73 - 92

太木雅夫、欧州連合の歩む遠い道 - そのシンボルの光と影、EUを考える、未来社、2011、244頁、p.p227 - 244

岡本和彦、EU東方拡大とユーゴスラヴィア、EUを考える、未来社、2011、244頁、p.p167 - 187

田中拓道、社会的ヨーロッパと新しい福祉政治、EUを考える、未来社、2011、244頁、p.p30 - 49

田中浩、EUの実験 - その思想的・歴史的前提、EUを考える、未来社、2011、244頁、p.p11 - 29

中村健吾、リスボン戦略の十年でEUはどう変わったか - 金融によって支配される蓄積レジームの危機 -、EUを考える、未来社、2011、244頁、p.p51 - 71

廣瀬真理子、福祉国家改革における「現代化」と「活性化」について - オランダの事例を中心に、EUを考える、未来社、2011、244頁、p.p113 - 128

廣瀬真理子、オランダ、障害者の福祉的疲労の状況と展望 - 働く権利と機会の拡大に向けて、中央法規出版、2011、356 頁、p.p104 - 118

6 . 研究組織

(1)研究代表者

大木 雅夫 (OHKI, Masao)
聖学院大学・政治政策研究科・客員教授
研究者番号：10053563

(2)研究分担者

田中 浩 (TANAKA, Hiroshi)
聖学院大学・アメリカ・ヨーロッパ文化学
研究科・客員教授
研究者番号：20015358

田中 拓道 (TANAKA, Takuji)
一橋大学・社会(科)学研究科・准教授
研究者番号：20333586

岡本 和彦 (OKAMOTO, Kazuhiko)
東京成徳大学・人文学部・准教授
研究者番号：30365001

廣瀬 真理子 (HIROSE, Mariko)
東海大学・教養学部・教授
研究者番号：50289948

穴見 明 (ANAMI, Akira)
大東文化大学・法学部・教授
研究者番号：70144102

中村 健吾 (NAKAMURA, Kengo)
大阪市立大学・経済学研究科(研究院)・
教授
研究者番号：70254373

上原 史子 (UEHARA, Fumiko)
成蹊大学・アジア太平洋研究センター・
客員研究員
研究者番号：70557602

(3)研究協力者

グレン・フック (HOOK, Glenn Dawson)
シェフィールド大学・東アジア研究所・
教授